さっぽろ あごら

郵便振替 02710－3－570 あごら札幌

No.215

あごら札幌 連絡先
細田 （011）
644－2927

今月通信担当
谷自合子

《今月の内容》

天にツバする話…… 1.2
わたし、仕事を辞めます…3
紅茶の時間……4.5
街を歩けば…
－私的「障害者体験ツアー」
……6.7
情報 ……8

1998.2.15発行

通信購読料 1,200円（年間）

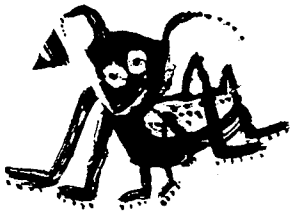
天にツバする話

K. S

日本は今、経済・金融情勢だけでなく政治や文化においても視界数メートルの霧の中にいるような状態である。まったく先が見えない訳ではないが、ほんの少し前までもっていた“この繁栄は永久に続き、よい学校に入ればよい会社に行けてよき人生を送れる”という確固とした揺るぎない（と当時は思っていた）先行きへの確信は、拓銀，山一証券，ゼネコン各社等の経営破綻や倒産を目の当たりにし、すっかり色あせてしまった。気が付けば国は借金だらけ、雇用は不安定、株価は低迷したままである。その上高齢化はすぐそこにまで迫り、ダイオキシンやオゾン層の破壊といった環境問題も待ったなしの状況である。子供達がキレまくっているのは社会の閉塞感を反映している面もあるのかもしれない。

どこに怒りをぶつけたらよいのだろう？

バブルの頃は税収も多かったはずだが一体どこの何に消えたのか？あの頃真剣に旧国鉄の債務を返済していれば、これ程膨大な負債を２１世紀にまで引きずる事態にはならなかったかもしれない。人口構造の高齢化もとうに予測できていたのだから医療保険，年金，介護といった分野の有機的で公平なシステムをもっと早い時期になぜ構築しなかったのだろうか。



厚生省直轄の年金福祉事業団が億単位の赤字を残して解散する。バブルの崩壊は予見できなかったとはいえ、この赤字はいわば厚生省に自主運用を任せたばっかりに生じたともいえるものである。年福事業団が各地に展開した宿泊施設グリーンピアは立地条件等の悪いところが多く、買い

取りを持ちかけられた自治体も二の足を踏むケースが少なくないと言う。

大蔵省と金融業界の癒着はどうだろう。護送船団方式といわれた“業界の指導育成”を行う部署と経営を検査する部署の両方を同じ大蔵省で行っていた。それぞれが独立して自己の職責をまっとうする組織ならばまだよいのだが、日本の場合山一に“飛ばし”を伝授し、銀行検査日は漏らすわ手心は加えるわの体たらくである。その昔“政治は２流だが、経済は１流”とか“政治家は無能だが、官僚が優秀だから日本は発展したのだ”と褒めたたえられた官僚機構はすっかり疲弊してしまったのか、国を動かしているという自負心にささえられ、安い給料も厭わず働いた人達はどこに行ってしまったのか。

談合がいまだに取り沙汰される建設省や開発庁はどうだろう。仲良しクラブの構成メンバーにとっては都合のよい仕事の分配システムも、競争原理が働かないため落札価格が高値に張り付き、メンバー以外の新規参入をはばむ。公共工事が適正価格で行われれば、浮いた税金を他の分野に振り向けることも可能である。クラブのメンバーを養うため不必要な公共工事を高い単価で行っていたとすれば国家に対する背任ともいえよう。

誰が悪いのだろう？どうすればよいのだろう？

どの省庁も埃が出ないところはまずない。通産省しかり、農林省しかり。公務員にはもっと誇りをもって仕事をしてもらいたい。公務員倫理法も施行されそうな気配であるが、法に違反するしないということよりもさもしい心を恥ずかしいと思う感覚を取り戻して欲しい。そして何が国民の利益を第一に考え、人々の声に率直に耳を傾けてもらいたい。本来公務員とは国民をサポートするための人達なのだから。

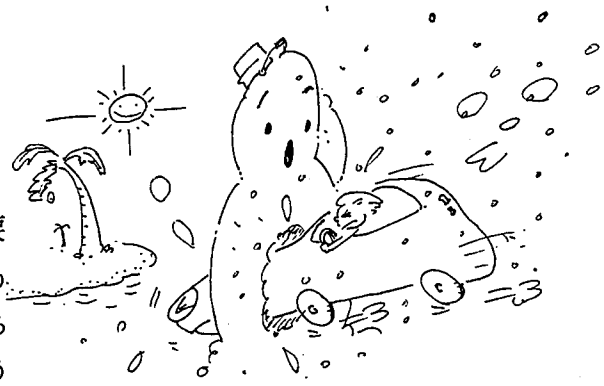
数年前カレル・ヴァン・ウォルフレンが「人間を幸福にしない日本というシステム」という本の中で、政治家や官僚がいわゆる『責任』も『説明する責任』（アカウンタビリティ）も放棄し、安易な先送りでお茶を濁す日本という国を憂えていた。それを支えて来たのが「シカタガナイ」と諦める私たちであったり、国に全面的に頼ってしまう私たちであったとすれば、内々で文句を言ったり、ぼやくだけでなく、どうして欲しいのかをはっきりしっかり主張してこなかった自分の責任を自覚しなければならない。

わたし、仕事を辞めます！

タカハシ　ヨシエ

当初、この原稿は『ご心配おかけしました、元気に働いています』というような題で書くことになっていました。『私、仕事を辞めてもいいですか』を書いた後も沢山の方からアドバイスいただき本当にありがとうございました。紙面を借りて御礼申し上げます。その後、嫌な同僚と直属の上司との話し合いをもち、「すみませんでした」と謝られ、状況は好転したかのようにみえたのでした。自慢話、悪口さえ我慢して聞いていたら…。ところが、編集会議数日後、事件が起こり180度の転換の末このようになりました。またチクリ、チクリ始まったので「お互いの取るに足らないケアレスミスは黙ってフォローしあうことはできませんか？」と言ったところ、相手はたちまち切れて「テメーコノヤロー○×シヤガッテ…」…たまたま、電話をかけにきた現場の人が居てさえのこの暴言。…「お互いにいっさい無関心で仕事をしていけばいい」。……その後、「さっきはすみませんでした。仕事辞めるなんて言わないで下さいね…」…今回私は、終始冷静に話せたので、何とか続けていける、と思っていたのですが、日がたつにつれ「これってなんかと似てる、これじゃ酒乱暴力亭主じゃないの！」と怒りがフツフツ。次があるとしたら、必ず暴力をふるわれるだろう。身のまわりには塩酸、硫酸その他劇薬だらけ。…妄想かも知れないけれど恐怖は膨らむ。…でも他人なんだからラッキー、仕事を辞めさえすればすぐに別れられる！！ということで３月10日で辞めることになりました。

辞める、と決めたのが12月。その後の身の振り方を諸先輩に相談した結果、ドタバタとその後の予定が決まりました。以前から要請を受けていたのですが、３月末から３カ月フィリピンで仕事をし、７月からは以前勤めていた公務臨職に戻る予定です。ほぼ１年間、アフター５もなく、土曜も通常勤務で、ただひたすら働くだけの毎日に終止符を打てると思うと、心の底からうれしさがこみ上げてニンマリしてしまいます。

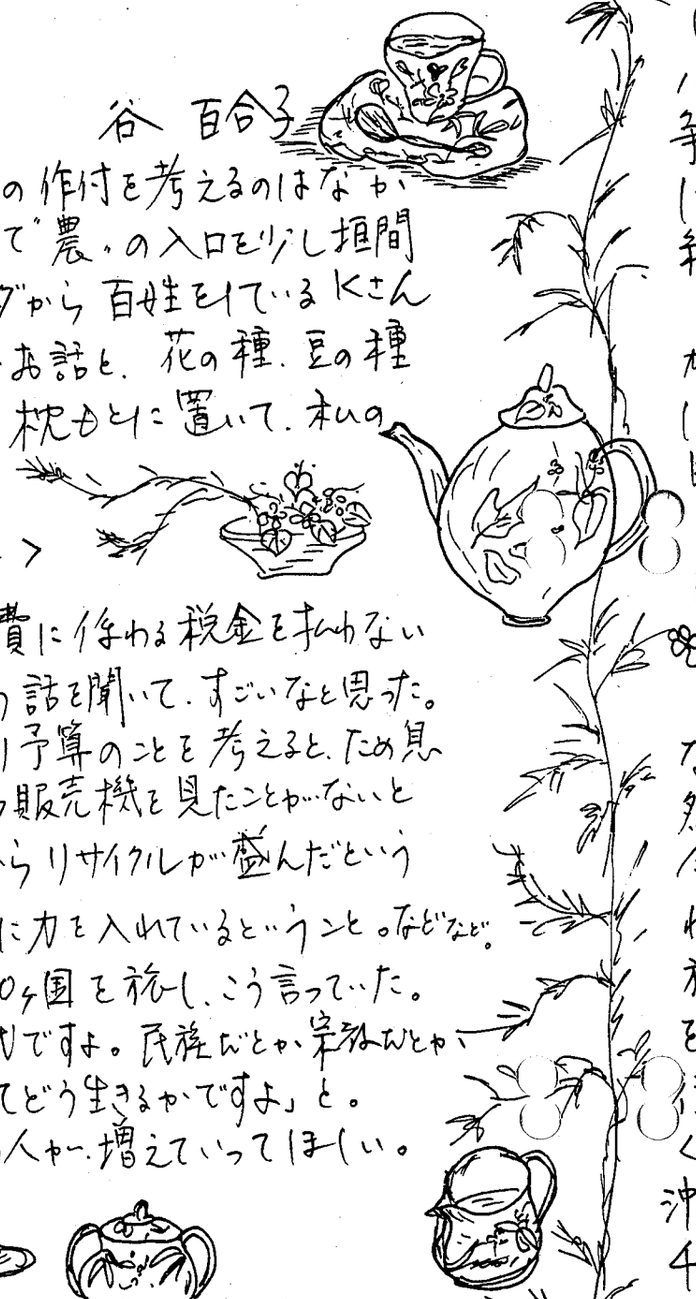


サー、仕事で鈍った体をほぐして諸活動再開！！！

紅茶の時間

谷 百合子

雪に埋もれながら、今年の畑の作付を考えるのはなかなか楽しい。畑ともだちも広がって"農"の入口を少し垣間見させてもらっている。先日も、カナダから百姓をしているKさんとSさんが遊びに来て、色々面白いお話と、花の種、豆の種をいっぱい置いていってくれた。枕もとに置いて、私の夢の種。



＜ヴィクトリアに花は咲き乱れ＞

カナダでは、宗教上の理由で、軍事費に伴わる税金を払わないという人たちを行政が認めたという話を聞いて、すごいなと思った。年々ふくらむ米軍に対する思いやり予算のことを考えると、ため息がでてくる。ヴィクトリアでは自動販売機を見たことがないと言う話。ゴミは全部有料だからリサイクルが盛んだという話。どちらかと言うと貧しいが、農業に力を入れているということ。などなど。

エスペランチストでもある二人は、30ヶ国を旅し、こう言っていた。「これからは個人が、国を選ぶ時代ですよ。民族だとか宗教だとかでつながるのではなく、地球市民としてどう生きるかですよ」と。

夢のような話ではあるが、そういう人が増えていってほしい。

＜ほおいふれえんど＞

シングルになって、プラス、マイナス いろいろあるが、プラスのなかのひとつに、いい男友だちが増えたことがある。気がついたら私のなかのカップル幻想がなくなっていて、私にとってこの人は？という見方ではなく、素直に人間性が見えてきたからかな、と思うのだが…。

❀ アレン・ネルソン… 友だちを呼ぶには余りにもBigで気恥ずかしいのではあるが、元米軍海兵隊員であったアレンさんの生き方には心を揺さぶられる。日本の海兵隊をアメリカにつれもどし、勿論戦争も軍隊も兵器もなくするために、世界中を飛びまわっている。黒人としての差別、貧困ゆえの差別、社会や男たちの母親への差別を見続けてきた彼の目は厳しく、そして暖かいのである。

昨年9月に矢臼別での米海兵隊実弾演習の時にも、彼はかけつけてくれた。中標津空港に降り立った本隊を見て、彼は思わず絶句し、涙があふれ出た。30年前の自らの姿をそこに見て、しかも、何も変わってない現実が又、目の前にあったのだ。

アレンさんは、今年も来てくれる。お互い相手国の言葉を勉強して上達する約束があるのだけれど…。

❀ まよなか しんや …本名 大城信也 50才、沖縄在住のフォークシンガーである。1972年の本土返還で、「復帰」とは、こんなもんじゃないぞ、基地はそのままだし、自衛隊もヤマト企業も、自然破壊のやりたい放題！ヤマトンチュに直接言いたいと思い、1年間全国をコンサートで駆け巡った。その後サラリーマンと歌手の2足のわらじをはいていたが、1996年の痛ましい少女暴行事件以来、家族の了解を得て、少女の涙を無駄にしてはいけないと、メッセージを伝えるためプロになった。　私は沖縄で1994年に彼と平和行進で出会った。私たちの宿となっていたカトリック教会に訪ねてくれて、小柄な身体いっぱいに、大きな声であふれる涙をぬぐおうともせず沖縄の思いを歌ってくれた。今回米軍基地に反対する会で彼を招き、私は4年ぶりの再会となった。小樽の駅に出迎えて、彼がすごく元気で明かるいので尋ねた。「うーん、今沖縄は元気だからね」とのこと。名護市長選は絶対に勝つと8日朝帰って行った。すぐに手紙を頂いた。「2.8名護市長選すごく残念です。しかし沖縄人は屈しません。草の根の平和運動をあせらず、ゆっくりと展望をもって歩みましょう」とあった。今夏、私は彼の東北アイヌモシリツアーのプロデュースをすることにした。沖縄のこと、アイヌ差別、原発、自然、阪神淡路のこと。　歌声で消そう暴力の火っていいナァー。

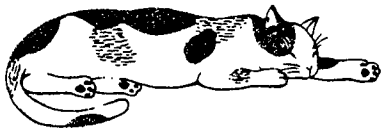
～街を歩けば～
～私的「障害者体験ツアー」

何事も自分が体験しなければ、実感しにくいものですが、私も、具合が悪くなったときや、転んでヒザを痛めたときに、「障害のある人に優しくない街」を少しだけ実感してしまいました。今回は、そんな話を…。

何よりも不思議だったのは――そのとき私が痛めたのは“脚”であって、視力とは何のかかわりもないはずなのに、ものの見え方というか「遠近感」が変わっていたこと。

職場の狭い室内で、たかだか１メートル半ほど先（つまり足で移動しなければ届かない距離）の机の上にのっているものを取るのが大ごとで、普段なら、ちょっと動けば届くごく近い距離と感じていたのに、その同じ距離が、まー遠いこと遠いこと。

いつも行くスーパーの売り場でも、通路のはしに立って思わず立ちすくんでしまった――そこから見た景色が、本当に、**望遠鏡を逆さに覗いたかのように**、遠く見えて。…必要なものをそろえるために、広い売り場をあちこち歩き回らなければならないのがしんどくて、狭い範囲に（レジも含めて）一通りのものがそろっているコンビニエンスストアがとてもありがたいと思いました。



あと、駅の階段――もう、地の底まで続くかのような下り階段と、天まで昇らんとするかのような上り階段（エスカレーター）の前で、めまいしそうになります（私が利用しているのは札幌の地下鉄の東西線です）。

エスカレーターは大抵上りしかないけど、ヒザを痛めているときはむしろ下りの方がこわくて、階段を一段進むとき、片足だけで自分の体重をささえきれず、必死で手すりにつかまりながら、気を抜くと下まで転がり落ちるんじゃないかという恐怖と闘いながら、降りる。

地下鉄に乗ったら乗ったで、今度はドアが開いてから閉まるまでの間に移動が間に合わないので、降りる駅に着く前にドアまでたどり着いていなければならない（普段ならドアが開いてから立ち上がっても十分間に合うんだけど）。

歩道と車道の段差もつらくて、わざわざ斜めになっているところまでまわる（室内の移動でもわずかな段差がやっぱりつらい）。段差というほどではないけど、歩道の敷石も、継ぎ目や凹凸のあるものはけっこうつらい。

あと、それまで気付かなかったのだけど、歩道がわずかに車道に向かって傾斜しているのもこわい。まっすぐ歩こうとしているのに、身体がだんだん車道に近づいていってしまう。

横断歩道も青信号の間に渡りきれなくて、信号が変わるのを一回待って、青に変わった直後から渡り始めるようにするのだけど、それでもようやくぎりぎりで渡り終えられる（でも歩道橋なんて論外）って感じ。

あとつらかったと言えばトイレだわね——和式トイレ、しゃがむのもつらいんだけど、しゃがんだらなかなか立ち上がれないんだもの。洋式でさらに手すりがある所はとてもありがたかった（その人の状態によって、必要な手すりの形って違う気もするけど）。

外に出掛けて帰ってくると、もうそれだけで疲れ切ってしまう。ずーっと冷や冷やしてなきゃならないんだもの。

普段、街中を歩くとき、人の間を縫うようにして追い越して歩くくらいなのに、そういうときはそろそろとしか歩けなくて、逆に人々に追い越されて、その追い越していく人々の速さや風圧に負けて、めまいがするくらいです——自分の時間の進む速度と、周りの人の時間の速度が違うんじゃないかという錯覚さえ覚えます。

5～6週間経ってヒザが治ってしまうと、それらの感覚はすっかりもとに戻りました。

最後に、シルバーシートのことについて少し書きたいと思います。

街中で、突然、具合が悪くなったとき、車では酔ってしまうので、頑張って地下鉄に乗って帰るのですが、あるとき、座席が空いてなくて、でも立っているのがつらくて、シルバーシートに座りました。札幌の地下鉄は揺れが少ないと思っていたのに、その地下鉄の揺れに、座っているのに姿勢を保持できなくて、必死でポールにしがみついていたのですけど、向かいの席にいた数人の男子学生のひとりに「あっ、オレも腹痛てっ」と、これ見よがしに言われ、私が、降りる駅で、ポールにつかまりながら、よろよろとドアから出て行ったら、「…マジ？」という声が後ろから聞こえました。そりゃねー、老人でもなければ、目に見える障害があるわけでもないしなーぅ。

一度、ドアの横にしゃがみ込んでいたら、向かいの席に座っていた女の人がわざわざ席を譲って下さったんですけど、いつも譲ってもらえるわけじゃないし、『譲って下さい』と言えるわけもないし、譲ってもらうのもそれはそれで心苦しいし…。

以前は「シルバーシートなどない（周りの人々が席を譲る）社会が理想」という意見に同感だったんですけど、今は“乗った人が全員座れる、座れない場合は乗せない”とでもいうのでなければ、「**シルバーシートはあったほうがいい**」と思っています。やっぱり気兼ねなく座れる場所があるのはありがたい。

人の善意やモラルに頼るのではなく、システムとして、そこに居場所がある、というほうがいいと思っています。

Information

2月22日(日) 米空母に反対する市民の会

再び語ろう米空母問題

定例会・学習会

小樽市生涯学習センター・Lモール

小樽市富岡1丁目5の1(0134-22-3363) 稲穂小となり

連絡先 011-664-0632

1:30〜16:00 まで

(1) 名護市長選を考える
(2) 小樽港の歴史について
(3) 北川ほ子インディペンデンスを考る(アイヌ民族の立場から)

500円

36才人の見物人(?)友好と親善を口実にやって来たインディペンデンスは今、イラクに戦争をしに行ってます。アイヌの北川さんには米空母も日本の船も、どちらも侵略者なのですと語っています。

「国際婦人年をきっかけに行動を起こす女たちの会」記録集出版カンパのお願い

1975年に発足してから、まもなく4半世紀。2000年には第5回世界女性会議が開催される。それを前に「行動する女たちの記録」を残したいと企画を進めている。1998年6月をめどに出版予定。日本の女性史運動史としても貴重な一冊。かつて行動を共にしたなかま、支援者にカンパを呼びかけ中。

口座番号 00160-8-414616
口座名称 行動する会記録編集委員会
1口 5千円(何口でも)

支援者には本書一冊贈呈、20%割引価格もあり。

連絡先 03-3359-8019(Tel) 中島通子法律事務所 気付
03-3359-8090(FAX)

ひびけ LOVE ジュゴン運動 ジュゴンバッチを買って海上軍事基地建設反対にNO!の声を上げよう。

ヘリ基地NO!女性たちの会 高江州あやの
沖縄県那覇市三原3-16-15-405 <098-834-4862>

150円+カンパ

あとがき 「原稿できた?」「今日速達で送った!」隔月発行になったけど、相変わらず。編集で集っても、身の上ばなし、世間話で、さっぱりはかどらない。でもいつの間にか発送しちゃってる。ジュゴンバッチかわいいですよ。 百合子